

第32回能代産業廃棄物処理センター環境対策協議会（議事録）

- 1 日 時 平成30年8月2日（木） 13:40～15:40
- 2 場 所 能代市浅内自治会館
- 3 出席者 浅内自治会（柴田和郎副会長）、小野沢自治会（渡辺正史副会長）、能代南土地改良区（保坂智）、能代の産廃を考える会（原田悦子事務局長）、能代市浅内財産区（山田文雄管理会会長、野呂田成功能代市総務部長）、能代市（畠山一仁環境産業部長）、秋田県（高橋修生活環境部長：委員長）【敬称略】
- 4 議 事
 - （1）委員の異動及び委員長の互選について
 - （2）平成29年度水質等調査結果について
 - （3）No. 2 処分場におけるドラム缶の掘削について
 - （4）その他

○秋田県 高橋生活環境部長 挨拶（要旨）

- ・今年3月の協議会で、残存するドラム缶について、過去のデータを分析し、専門家の意見を聞いた上で、改めて協議させていただくこととしていた。
- ・7月20日に能代産業廃棄物処理センターに係る環境保全対策部会を開催し、過去のデータの分析結果や県としての今後の対応方針について、審議していただいた。
- ・本日は、その結果を踏まえ、例年行っている平成29年度の水質等の調査結果のほか、過去のデータの分析結果や県の今後の対応方針について説明し、改めて協議させていただきたいと考えている。

（（2）平成29年度水質等調査結果について、事務局で説明後、質疑応答）

<質疑の概要>

- | | |
|-----|---|
| 委 員 | H17B-15-1（観測井戸）は、毎年1, 4-ジオキサンが高濃度で出ている所である。その井戸の位置は、水処理施設の下側で、通路との境目あたりにあり、処分場との位置関係からすると、処分場が起因すると思うが、No. 1、No. 2 処分場との関係、あるいはNo. 6 処分場との関係、そういったことに関連する地下水の流向などの調査はされているか。 |
| 県 | <p>この井戸は、1号水処理施設の東側の法面にある。場内の地下水の流れについては、西から東方向に流れているという、過去の調査結果がある。</p> <p>前回の18、19年にドラム缶を掘った後にも、変動が出た。その変動については、掘削の影響だろうということで前に説明していると思う。28年度以降の変動については、この井戸が2年ほど渇水状態となり、水が採れなかったこともあったので、その影響があるのではないかと考えている。</p> <p>昨年行った掘削の影響については、今のところは影響が出ていないと思われ、No. 6 処分場との関係については、地下水の流れが少し違うこと、また、No. 6 処分場は遮水シートを有する処分場であることから、直接の影響はないと考えている。</p> |
| 委 員 | H17B-15-1の井戸は、非常に関心のある場所だと思っている。今ここで議論するというより、少し時間をかけて、処分場の整理も必要ではないかと思うので、今後の議題として、No. 6 処分場と地下水との流向関係を調査すべき |

ではないかということをご提案させていただく。

委員長 今の提案については、今後の協議会で協議していきたいと思う。

委員 H17B-15-1の井戸について、成分らしきものが多く出ていることを考えると、周辺にドラム缶が埋まっている可能性はないのか。また、その周辺の掘削や調査は考えていないか。

県 はっきりは言えないが、能代産廃ができた頃に、この辺は通路になっていた所と認識しており、水処理施設を建てている現状から見ても、廃棄物を埋めた上に構造物を建てることはないだろうと思っている。ここは、地下水を通じて汚れが出る場所なのだろうと考えている。

あくまでも観測井戸として作っていて、井戸を掘る時にも廃棄物に当たったような状態ではなかったので、調査等に加えることは考えていない。

委員 水処理施設を作る際に現場で立ち会ったと言う人が、水処理施設を建てる時には、廃棄物は埋まっていなかったと言っていた。ただ、水処理施設の所には埋まっていないと思うが、No. 1 処分場を掘削した際に、ドラム缶がNo. 1 処分場から連続してNo. 2 処分場の入口の所まであり、No. 2 処分場の上の通路がなくなるくらい掘っているように、きわどい所までドラム缶の存在が確認された事実がある。No. 6 処分場だけは、位置関係が届出書類から、曖昧な部分等もあるため、今後、この処分場を解決するために整理すべき重要なところではないかと思っている。

続いて、24ページ下の方のNo. 10 処分場の地下水もかなり高い1, 4-ジオキサン等が出ている。それと、旧国有地ため池地下水の集排水は、今は処分場に囲まれてくぼ地になっている所に集められた、処分場から搾られてきた水のことか。

県 くぼ地部分のアスファルトの下に集水管を入れており、そこに集まった水である。

過去の調査で、場内の北側は西から東、場内の真ん中辺りになると、くぼ地部分に集まっていくという地下水の流向になっているので、くぼ地部分の汚れは、比較的高いと考えている。

委員 古い処分場のNo. 4、5、7、それからNo. 10、8、11、どれが起因しているかは、はっきり言えないと思うけれども、ただ、昔からある集水管ということであれば、No. 4、5、7は、ドロドロになっているものを集水管の所に集めていたので、遮水シートはあるというものの、この地下水の集排水は気になる。

それと、24ページ下にあるNo. 2 処分場の溜り水は、昨年No. 2 処分場を掘削して、埋め戻ししなかった部分に溜まった水のことか。

県 掘削作業中に、掘削した所に溜まっていた水である。

委員 掘った所の穴は、汚染された水が出てこないように埋め立てたいとの意向だっ

たと思うが、どのくらいの量が、溜まる形になっていたのか。今は汲み上げているのか。

県 今はいくみ上げていない。あの穴の中には、1 m位の水位で溜まっている。工事が終わって以降、水位はほぼ変わっていないと思う。

委 員 その穴を、もう少し深く掘って、そこに溜まった水を処理する方がいいのではないか。

県 一度汲むと、溜まるまでに、しばらく時間がかかると思う。あの周辺に揚水井戸が3つはあるので、そこで汲んだ方がいいと思っている。

委 員 こういうVOCの濃度が高い水を汲み上げて処理する考えはないのか。

県 本来処理した方がいいと思うが、処理するには、仮設のポンプ等を設置しなければならないこともあり、今は処理していない。

確かに濃いものを汲み上げる方が効率はいいが、水処理施設の処理能力もある。例えば、1号水処理施設の1, 4ージオキサンを処理する能力は、3～4 mg/Lである。他の地下水と混ぜて、濃度を調整してからになると思うが、処理できなくはない。

委 員 溜まっている水を汲み上げないと拡散して、余計な手間がかかると思う。VOCの濃度が高い水を早めに処理した方がいいのではないか。

県 拡散させて洗い流すという方法も対策としているところであり、水処理施設の処理能力等の関係もあるので、そのことについては、今後考えたいと思う。

委 員 汚染の度合いが強い所を先に処理しないと、処理が長くなると思う。

県 揚水井戸を北側の方に比較的集中させて、汲み上げ処理する対策をとっている。

委 員 予期しない何十年に一度の雨が降ったら大変だと思う。

県 雨水は直接地下に浸透していくため、できるだけ雨水自体は排除するようにしているので、あの辺で大雨が降った場合でも、場内の水の量は大丈夫だと思う。

委 員 No. 2 処分場の掘った所の水のことを議論しているが、VOCが高濃度で検出されている状況であり、今後の処分場の掘削、調査にも影響することだと思うので、技術的な面も含めて、住民側との議論の中に入れておいていただきたいと思う。

((3) No. 2 処分場におけるドラム缶の掘削について、事務局で説明後、質疑応答)

<質疑の概要>

- 委員 ドラム缶の調査には、ボーリング調査が一番いいということだが、25、26年も、ボーリング調査よりないということで、15m間隔でボーリングを行った。我々としては、現にドラム缶が見えているので、今日欠席の水利組合長も言っていたが、ボーリング調査にお金をかけるより掘った方がいいという考え方は変わらない。
- 県 そのことについては、いつも言われるが、予算を確保するためには、どこまで掘るか範囲を決めないと予算が取れないということがある。その範囲を決めるために、ボーリング調査が必要であり、前回と同様にボーリング調査を行って、掘削の範囲を決めて、設計をし、最終的に掘削するということで、皆様方からすると、もどかしいところもあると思うが、県が行う事業であり、そういうステップを踏んでいかざるを得ないことは、改めてご理解いただきたい。
- 委員 昨年の半端な掘削状況には、住民として、不安と県に対する不信感を持っていた。また、能代産廃の安定を図る上で、昨年の県の方針は、非常にショックを受けた。今回の少し前進した方針については、住民5団体としては有り難い方針転換であり、感謝申し上げたい。
- 委員 先ほど、予算確保のために範囲を決めなければいけないという話だったが、確かに順序があるのは、私なりに理解することはある。そうすると、ドラム缶711本を、これまで3年間で処分するという話であったが、処理状況がどうなっているか確認したい。また、今説明された今後の対応について、予算確保の仕方、時期、それから追加調査のスケジュールを教えてください。
- 県 ドラム缶の処理状況については、昨年度に711本のうち224本処理しており、今年度288本処理する予定で、処分業者と契約を締結している。31年度に、残りの199本を処理する予定である。
- 県 本日県の今後の対応方針を示したので、これについてご承諾いただきたいということが大前提であるが、その後に、具体的なボーリングの位置や調査の内容を、この協議会で協議したいと考えている。次回の協議会までに、ある程度調査の概要の案を決定しなければならないと思っていて、それについては予算の関係もあるので内部で調整した上で、次回の協議会は10月くらいと思っている。
- 委員 その協議会の結果を踏まえた上で、再度調整をし、来年度の当初予算で調査、解析、設計までを行い、再来年度ぐらいに掘削と考えている。まだ調整はしていないので、あくまでも現状での考えということでご理解いただきたい。
- 委員 No. 2 処分場の今後の対応については、継続して掘削していただきたいということは変わっていないので、ドラム缶の処分に3年かけることは心残りだが、方針を転換したことについては評価したいと思う。No. 2 処分場の掘削箇所の汚れた水の状況を見ても、早く何とかしなければいけない場所だと思うので、予算を獲得するところまで迅速に進めていただきたい。
- 委員 先日の新聞で、これが最後だという気持ちで調査にあたりたいと報道されている

るが、いつの時もこれが最後だと思ってやっっては来ているが、なかなかそうはいっていない。産廃特措法も期限を控えているのだから、そういうことも計算しながらやっていかないと大変だと思うので、そこはよろしくお願いしたいと思う。

ご足労かけるが、能代市の協力も得ながら、協議会で県の方針が示される前に、事前に住民側の意向を聞く機会を設けて、お互いにこれが最後だという気概を持って、技術的な面も含めて十分な意見交換をして、その方針を固めていくことが必要ではないかと思うが、いかがか。

委員長 いずれ、協議会だけではなくて、住民に十分に説明をし、意見を聞く機会を設けて取り組むことは当然だと思う。事前に皆様と協議し、意見を反映させて、予算に向かい、それを最終的に協議会で決めていきたいと思う。具体的な進め方については、改めて事務局の方から協議させていただく。

委 員 No. 2 処分場の問題については、住民5団体として、何回も三回も申し入れしているが、No. 2 処分場の他に、No. 6 処分場についても、ドラム缶の存在が分かっている。

No. 2 処分場は1本だと思って掘ってみたら、四百十何本も出てきている。トラック10t車に1本だけ積んでくることはなく、一杯一杯に積んで、それをそこに入れるわけなので、No. 6 処分場の1本出ている所は、揚水井戸で対応しているところだが、No. 6 処分場、その他のNo. 5 処分場についても、我々は提案しているので、これが最後だと言うのであれば、そのことも忘れずに、全面的な解決に当たっていただきたいと思う。

県 ご要望はしっかり受け止めており、忘れていたわけでもないが、まずは、No. 2 処分場の話を先に進めさせていただきたいと思う。

委員長 新聞の報道だが、少なくともNo. 2 処分場については、今回を最後にしたいという趣旨で、部会で話した。

ボーリングの深度は、下に埋まっていることがないように自然地盤までとして、範囲は、部会である程度連続してあるだろうということで、前はメッシュでどこにあるかを探し当てるような調査だと思うが、今回は縁や深さを決めるための調査だと思っているので、調査の仕方が前とは違うと思う。その範囲や本数等をこの後皆さんと協議して決めたい。それでもって、No. 2 処分場は終わりにしたいということの最後ということで、ご理解いただきたい。

委 員 昨年の掘削ではドラム缶の一部が入っていた2箇所を中心に掘ったが、次回の掘削に関しては、今の話だと、何かがあった場合はその近辺をかなり広く掘削すると受け止めてよろしいか。

委員長 おそらく連なってドラム缶が埋まっているだろうと思うので、一番端と端が決まれば、その間は全部あるだろうとの推測で積算するという趣旨である。

委 員 たしかに前回のボーリング調査は、何が埋まっているかと、遮水シートがあるかないかの調査であった。たまたま最初の地点でドラム缶に当たった。

県	今回の掘削の状況から1本あった所から結構な広がりがあった。頭の中の整理としては、極端な話だが、ここに出なくてもその近くにはあるという考え方で、積算しないといけないと思っている。前のように予算上の不足がないように、そこはしっかり精査して、予算計上しないといけないと思っている。
委員	掘削の重点調査範囲について、前回掘削した面積と同程度と思われるが、これで全部調査できる金額を確定し、予算取りすることはできるのか。
県	範囲が決まれば、土量はある程度決められる。ドラム缶の処分料金が一番かかるので、そのことについては、何百本と出てきているという現状を踏まえて、積算すれば、大丈夫だと思っている。
委員	ボーリング調査を始めても、今見えているドラム缶はあのままか。ボーリング調査をして、何かに当たってから、今見えているドラム缶を掘るということか。
県	そうしておかざるを得ないだろうと思っている。
委員長	N o . 2 処分場掘削箇所に関する雨水の問題、穴の状況、場内外の地下水については監視し、何かあれば緊急でやる。要望としては継続して掘削することだと思うが、一旦調べて、きちんと範囲を決めた上でやりたいと思っているので、ご理解いただきたい。
委員	あの穴の埋め戻しはさせない。
委員	ボーリング調査やって、当たった所の現場を見た時、よく当たったと思った。ドラム缶の間に入っていれば外れている。
県	前にも議論したが、当たる精度と当たらない精度、どちらの精度が高いかということだと思う。掘削の状況を見ると、ドラム缶があれば間違いなく当たると思うし、当たらなかった所は、本当になかったと思う。前は15m間隔でボーリング調査を行ったので、今度はもう少し狭めた間隔で、計画したいと考えている。
	(以上、質問等なし)
委員長	本日は県の方針をご理解いただいたということと、協議会は10月の予定だが、それまでに住民の方の意見を聞く機会を作りたいということであった。 いずれこの後、知事に本日の皆様のご意見を報告して、庁内の調整に入りたいと思っている。来年度の当初予算に向けて、予算を確保できるよう進めたいと思うので、引き続きご協力をお願いしたい。 以上で、第32回能代産業廃棄物処理センター環境対策協議会を終了する。